

史跡上田城跡保存管理計画

上田城跡を史跡として適切な姿で後世に引き継いでいくための方針や方法等について決めました。

■上田城跡を保存管理していくための方針

- ・ 櫓、石垣、堀等、現存する遺構の保存管理の方法を決めました
- ・ 体育施設等は将来的には史跡外移転をめざしますが、移転が可能となるまでは現状を維持します
- ・ 桜の植栽が可能なゾーンを設けるとともに、老木を維持し、上田城跡の桜の景観を保持します
- ・ 神社地、民有地は所有者の意向に配慮して公有化を進めます



尼ヶ淵から望む南櫓・西櫓

■復元整備、工事、植栽等を行う際の基準を明示

- ・ 櫓、武者溜り等の復元整備は史実に忠実に実施します
- ・ 史跡内では復元整備に関するものを除き、原則として新たな建造物等の設置は認めません

■整備・活用の基本方針と方法

- ・ 櫓や武者溜り等の復元整備事業を推進します
- ・ 市民や観光客に親しまれる整備を実施します
- ・ イベントの実施や江戸時代から残る樹木の保護育成等、市民協働で史跡の保存活用に取り組みます



櫓門が復元された本丸東虎口

■保存管理及び整備活用の体制

- ・ 神社、土地所有者及び市役所関連部局が連携して保存に取り組む体制づくりを進めます

■三の丸の関連遺跡等の保護

- ・ 上田藩主居館跡（現上田高等学校）、御作事場（現清明小学校）等の関連遺跡の保護に取り組みます



史跡上田城跡保存管理計画・史跡上田城跡整備基本計画〈改訂版〉
(ダイジェスト版)

平成 24 年 3 月発行

編集・発行 上田市教育委員会 文化振興課
〒 386-0025 上田市天神二丁目 4 番 55 号
TEL 0268(23)6361 FAX0268(23)6368

ダイジェスト版

史跡上田城跡保存管理計画 史跡上田城跡整備基本計画

〈平成 23 年度改訂版〉



解体前の本丸東虎口櫓門と北櫓（明治 10 年頃）

上田市教育委員会

後世に伝えたい上田城跡の価値

保存管理計画では左に掲げた方針の策定のほかに、上田城跡を構成する三つの要素である「史跡の本質的価値（櫓、石垣、堀、尼ヶ淵の景観等）」「近代の公園等形成に関する諸要素」「現代の公園園利用に関する諸要素」を整理し、今後の保存管理方針を定めました。

復元された櫓門と北櫓



唯一残る江戸時代の建築・西櫓



石垣



史跡の本質的価値

史跡上田城跡

近代の公園等形成に関する諸要素

現代の公園利用に関する諸要素



松平神社（明治40年頃）



本丸にあった招魂社（明治40年頃）



上田市立博物館（昭和40年）



テニスコート（昭和2年）



二の丸橋（昭和2年）



大阪城友好城郭記念碑（平成21年）

史跡上田城跡整備基本計画〈改訂版〉

当初計画（平成2年度策定）で設定した中期・長期整備目標のうち、未実施である事業を短期整備目標（概ね10年間）として再設定し、城の正面となる本丸・二の丸の東虎口周辺を優先的に整備する計画としました。

■平成2年版と今回改訂箇所の概要

| 内 容 | 平成2年版 | 改 訂 版 |
|----------|----------------------------------|--|
| 市民会館跡地整備 | 中期整備目標として武者溜りの復元整備を計画 | 短期整備目標として改めて設定し、武者溜りを多目的広場として整備する |
| 駐 車 場 | 小泉曲輪の市民体育館付近に整備する計画 | 市民会館駐車場を廃止する。勤労青少年ホームの廃止後には、その跡地及び周辺に駐車場を仮設する。 |
| 本丸隅櫓の復元 | 中期整備目標として本丸7つ櫓の復元を計画 | 短期整備目標として改めて設定し、本丸東北隅にあった櫓2棟と土塀の早期復元を目指す |
| 植 栽 計 画 | 史跡にふさわしい景観を形成するために赤松等を主体とした植栽とする | 桜の植栽についての基準、植栽可能区域、維持管理の方針を定めた |
| バリアフリー化 | 記載なし | 園路舗装、トイレ等のバリアフリー化を計画 |



優先して整備する計画とした上田城の東虎口一帯（幕末の上田城を再現した模型：市立博物館所蔵）



--- 史跡範囲

将来整備構想図(重図)

S=1/2000(A3)



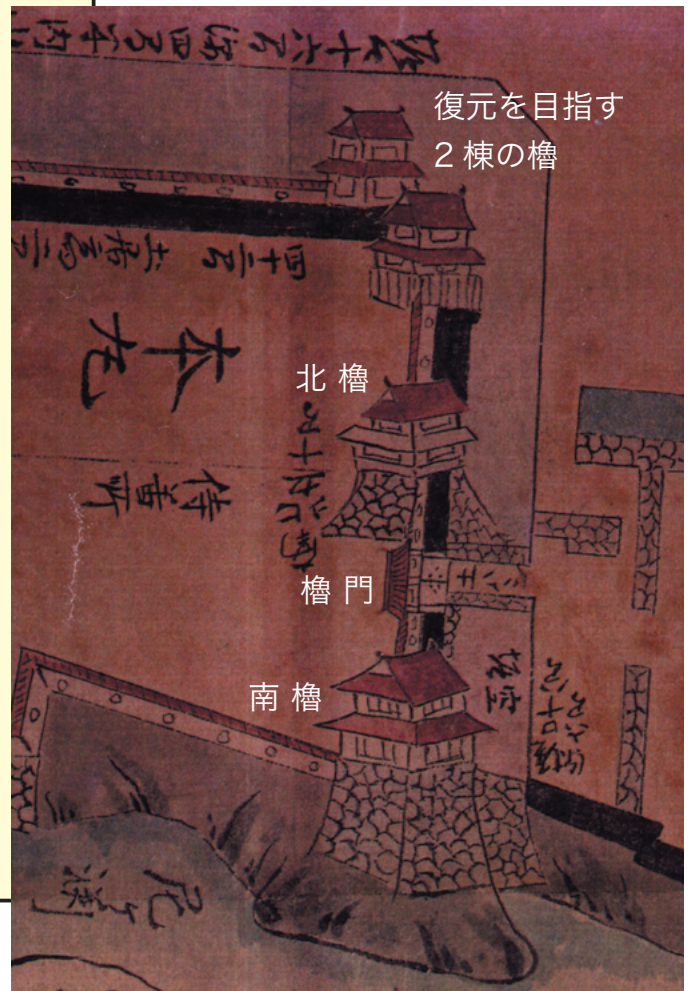
※本丸槽の呼称について
江戸時代の呼称については現状では不明です。
今後文献等の調査を継続しますが、この図では便宜的
に1号槽から7号槽までの番号を付しています。

本丸櫓の早期復元を目指します

真田信之に続いて城主となった仙石忠政が上田城を復興し、以降、本丸には7棟の櫓があったことがわかっています。明治の払い下げの際にほとんどの櫓は解体されますが、西櫓は唯一解体をまぬがれて現存しています。また、北櫓・南櫓は城外に移築されて貸座敷として利用されていたものを昭和24年に再移築したものです。

今回の計画改訂では、失われた4棟の櫓のうち東北隅にあった2棟と周辺の土塀を優先した復元整備を進めていくこととしました。武者溜りと合わせ、城の正面となる本丸と二の丸の東虎口一帯を城郭構造が体感できるように復元整備する計画です。

ただし、櫓の復元には外観の分かる古写真、建物内部の図面等が必要です。今後も調査を進め、必要な資料の収集に努めます。



隅櫓を描いた絵図（1700年頃（元禄年間））

市民会館跡地の整備を進めます

市民会館付近は江戸時代には武者溜りと呼ばれる土塁と石垣に囲まれた広場でした。また、その北側に隣接して三十間堀があり、上田城の特徴でもある、堅固な防御施設が数多く置かれた一帯でもありました。

今回の計画改訂では、市民会館の移転に伴い、武者溜りを史実に忠実に石垣や堀を整備していくという目標を掲げ、合わせて市民の憩いの場、観光の拠点としての利便性も考慮して整備していく方針を定めました。具体的な整備の方法については、今後、関係部局や市民の皆さんのご意見をお聞きしながら決定していきます。



武者溜りを描いた絵図（享保14年（1729））